

講座名（専門科目名）	臨床免疫病態学	教授氏名	高松 漂太
学生への指導方針	クリニカルクエスチョンを解決する過程を通じて、臨床医学を深く洞察できる能力を育みます		
学生に対する要望	未解明のクリニカルクエスチョンを持ち、自らそれを解決したいと望む学生。実験や研究、ディスカッションを楽しむマインドを有し、自ら実験や解析を行う学生を歓迎します		
問 合 せ 先	(Tel) 0721-53-5761 (Email) thyota@imed3.med.osaka-u.ac.jp	担 当 者	高松 漂太
その他出願にあたっての注意事項等	研究場所は、河内長野市の大阪南医療センター臨床研究部になります。 参照： https://takamatsu-lab.com/		

大阪南医療センターは大阪府南部の河内長野市に位置し、関節リウマチをはじめとする免疫疾患、呼吸器疾患、肺や消化器の悪性腫瘍などの患者を多く診療している病院です。当院では長年に渡って関節リウマチ診療を行っていた歴史から免疫疾患センターがあり、免疫内科を中心として、整形外科、呼吸器アレルギー内科、皮膚科、腎臓内科、血液内科、腫瘍内科といった診療科が協力しあって診療にあたっています。

臨床免疫病態学講座は、大阪南医療センターに併設された臨床研究部にあり、動物実験施設（SPF）、遺伝子改変実験施設、細胞培養実験室、共焦点顕微鏡、スペクトル型フローサイトメーターなどの設備や実験機器を有しています。臨床研究部では、企業治験の実施と病態解明や治療効果の検証といった臨床研究を推進しており、特に、免疫異常疾患研究室は、免疫をキーワードに、関節リウマチや膠原病のみならず、皮膚病理や腎病理、MTX関連リンパ増殖性疾患などに関する研究を行い、これまでに膠原病（関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎、ベーチェット病）の病態解明研究や新規治療薬の探索研究を行っています（*Arthritis & Rheum.* 2025; *BMC Rheum.* 2024; *EMBO J.* 2023; *Rheumatology (Oxford).* 2023; *Ann Rheum Dis.* 2018）。また、免疫細胞の移動メカニズムの解明と細胞移動を標的とした治療薬の開発研究を行っています（*Life Sci. Alli.* 2025; *EMBO J.* 2023, *Nat Commun.* 2021; *Nat Immunol.* 2010）。また、近年では、悪性腫瘍に対する免疫チェックポイント治療（ICI）に伴う免疫関連副反応（irAE）や、関節リウマチや膠原病に合併する悪性腫瘍に対する治療法の開発といった研究にも着手し、大阪大学工学部と共同研究により、悪性腫瘍に対するICI治療の予後予測を可能とする1細胞機能評価用デバイスの開発にも取り組む（*Theranostics* 2020; *Sci Rep.* 2021）など、学部や診療科の垣根を超えて病態の解明や新しい治療法の開発を行っています。また、地域特性から超高齢患者も多く、超高齢者の抱える医学的、社会的課題の解決を目指した研究も開始しています。

現在、以下の3つを柱に研究を進めております。

- ① 免疫異常疾患の病態解明と新規治療法の開発
 - 治療難治関節リウマチ（D2TRA）の治療抵抗性バイオマーカーの探索
 - 膠原病合併間質性肺炎（CTD-ILD）のバイオマーカーの探索と病態解明
 - 膠原病合併肺動脈高血圧症（CTD-PAH）のバイオマーカー探索と病態解明
 - 抗CCP抗体の病原性に関する研究
- ② 臨床検体を用いた癌微小環境研究と、免疫疾患患者に対する安全なICI治療法の確立
 - 担癌患者の末梢血液や癌手術検体を用いた免疫プロファイリング研究
 - 癌合併RA患者における生物製剤の安全性と有効性に関する研究
 - 免疫疾患患者に対するICI治療とirAEに関する研究と安全なICI治療法の確立
- ③ Dxを用いた患者のADL改善に向けた研究
 - リング型デバイスを用いたバイタルモニタリングによる慢性呼吸器疾患患者のADL改善研究
 - ポリファーマシーの改善に資する地域医薬連携による「処方のみえる化」研究
 - 超高齢者の危機管理に関する教育・リハビリコンテンツの開発による健康寿命増進に関する研究

大学院生期間中も臨床キャリアを高めながら研究にも楽しく取り組むスタイルで、患者や社会のニーズに応え、臨床に根ざした研究の推進を目指しています。